

3 2 腐食について（2）

平成22年に腐食のおそれが高い既設の地下貯蔵タンクに対し、講じなければならない流出防止対策が示されました。その効果もあり、ここ数年地下タンク貯蔵所で発生した流出事故件数の減少傾向が続いています。

55件（H22年） → 43件（H26年）

しかし、地下で発生した流出事故は、発見が遅れて被害が大きくなりがちです。腐食防止策を講じるとともに、在庫管理や日常点検等を徹底し、万が一事故が発生しても早期に発見することが大切です。

1 このような現象が起きていませんか

- ① 危険物の使用量と在庫量が合わない。
- ② 危険物に水や気泡が混入する。
- ③ 漏えい検査管から油分が検出された。

※ 腐食等劣化による漏えいが考えられます。異常の原因を究明し、万が一漏えいを確認したときは、応急の措置を講じるとともに、直ちに消防機関に通報してください。

2 県内の事故事例

- ① 地下タンク貯蔵所において、重油の使用量と在庫量が合わない現象が続いたため点検を行ったところ、地下埋設配管の腐食部分から重油の漏えいが確認された。（H25）
- ② 屋外タンク貯蔵所の地下埋設配管が腐食により孔が開き、そこから重油約80リットルが流出した（H26）



腐食等劣化による事故の例